

# 「五葉山の魅力」

五葉山自然倶楽部  
創立10周年に寄せて

88

戦後、衣食住の全てが極度に不足した時代、小学校・中学校は野球、高校では山岳部の部活動に熱中した。山岳部への入部は、吉田茂首相が「バカヤロウ解散」した昭和二十八年。新入生訓練では上級生達がいかにもそれらしく指導し、新入生はただ牛馬の如く足元を凝視しつつ右往左往するだけである。

訓練の効き目か、五葉への中毒症状を呈するようになった。山行の土曜日は四校時まで受けけないで三校時まで切り上げる欠課の常習犯だった。四校時まで授業を受けるのと、山に行くためのちょうどいい汽車に乗り遅れてしまつからた。

当時、登山の折に泊めさせてもらったのは日枝神社参籠所で、避難小屋としても貴重であった。日枝神社は石垣で囲まれ、石垣近くまで這い松に覆われていた。神社前には頂上を望むように鳥居が立っている。今はとき村上金吾さんは、大正十五年八月に最初に登山した時には、日枝神社の石の祠も石垣も、そして参籠所(山小屋)もなかったと氏の紀行文に書き記している。昭和二十四年当時、廃

屋同然だったこの山小屋が開催された。

を、釜石高校山岳部の顧問であった保坂先生を「棟梁」にして建て直したと聞いている。そんな因縁なのか、毎年のように義務的な補修があった。思い出深いのは、キ

樺林に閑静な佇まいを見せていた。大船渡営林署の許可を得て長い間使わせていただいた山小屋である。予約も、約束もしないのにそこには誰かが待っている。そこにいれば誰かがやってくる全く不思議な山小屋だった。

これを止められず、ついには廃屋となった。この山小屋には登山者達がそれぞれの思いを書き綴った「鳩の随想」なるノートがあった。全てがそろっていれば相当な冊数に及ぶはずだ。が、数冊を残して所在は不明である。

【執筆プロファイ】一九三七年生まれ。釜石市只越町在住。一九五六年釜石高校を卒業後、家業のかまぼこやを受け継ぐ。割烹「魚てい」を開設。アトラス山岳会

## 山小屋の青春群像

釜石市只越町 菊池 貞次

スリング型ザックの上に五分板を敷き乗せての運搬がとてみきつかったことだ。山岳競技が五葉山を会場に行われたことも忘れられない。昭和二十八年八月、岩手県山岳協会が主催し釜石市と甲子村が後援した第八回国民体育大会岩手県予選と第五回岩手県体育大会山岳の部

部によって整備されているが、夏休みを利用し泊まりがけの登山道整備作業は、暑さと空腹との闘いでもあった。

このとき使わせていただいたのが、鳩ヶ峰コースの近くにあってこの山小屋も、年々老朽化が進み傾きを増していった。この愛おしい建物を可能な限り補強、修理をしたが、屋根の腐食、建物倒壊のおそ



頂上部より黒岩方面を望む。中央は日枝神社の鳥居

ニシキ  
ニシキ  
ニシキ

コース上に位置し、白